

第41回

中央区政 世論調査

概要版

平成23年7月実施

【調査の項目】

- | | |
|-----------|---------------|
| (1) 定住性 | (6) 医療相談窓口 |
| (2) 防災対策 | (7) テレビ広報 |
| (3) がん検診 | (8) 防犯対策 |
| (4) 高齢者対策 | (9) 地球温暖化対策 |
| (5) 子育て支援 | (10) 施策の要望・評価 |

【調査対象】中央区に居住する満20歳以上の男女個人

【対象者】2,000人

【抽出方法】無作為抽出法

平成23年5月31日現在の住民基本台帳に
登録された満20歳以上の男女102,717人より
一定の割合で系統的に抽出

【調査方法】郵送法（郵送配布 - 郵送回収）

【調査時期】平成23年7月1日（金）～7月15日（金）

【調査機関】株式会社エスピー研

【回収結果】回収数 1,097 回収率 54.9%

CHUO CITY

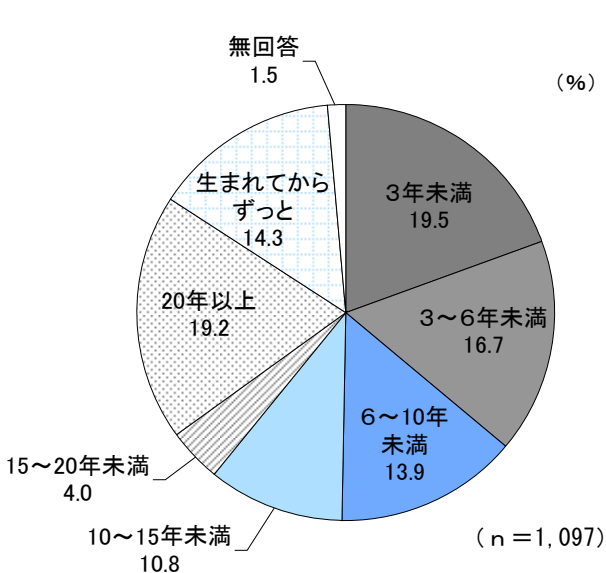


1 定住性

■ 居住年数

『長期居住者』（「20年以上」と「生まれてからずっと」の合計）は33.5%、『短期居住者』（「3年未満」と「3～6年未満」の合計）は36.2%でともに3割台半ばある。

過去の調査結果と比較すると、平成20年からは『長期居住者』が増加傾向にあり、『短期居住者』が減少傾向にあったが、今年の調査結果では『長期居住者』が減少し、『短期居住者』が増加している。

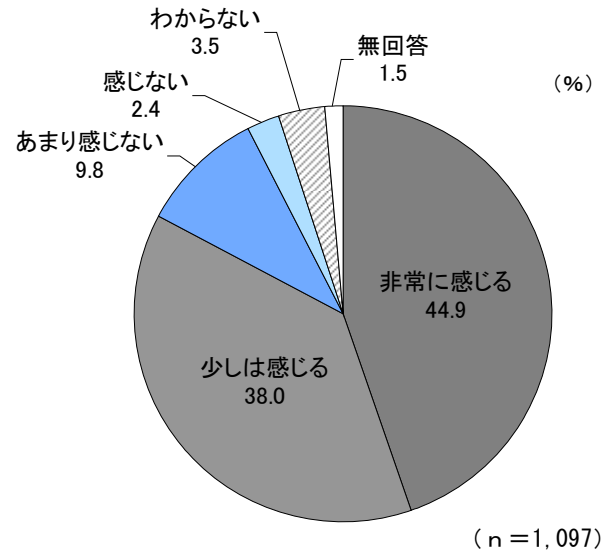


■ 愛着心

『感じる』（「非常に感じる」と「少しは感じる」の合計）は82.9%で8割を超えている。

一方、『感じない』（「あまり感じない」と「感じない」の合計）は12.2%にとどまっている。

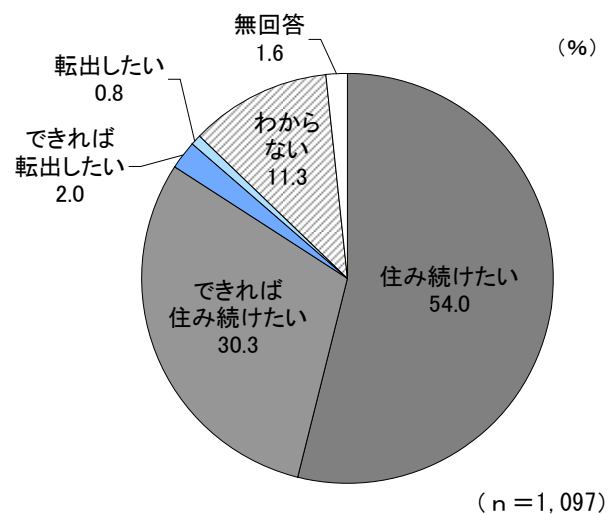
昨年の調査結果と比較すると、「非常に感じる」は平成17年から増加傾向にあったが、昨年の調査結果より5.8ポイント減少している。



■ 定住意向

『定住意向』（「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計）は84.3%で8割台半ばである。一方、『転出意向』（「できれば転出したい」と「転出したい」の合計）は2.8%にとどまっている。

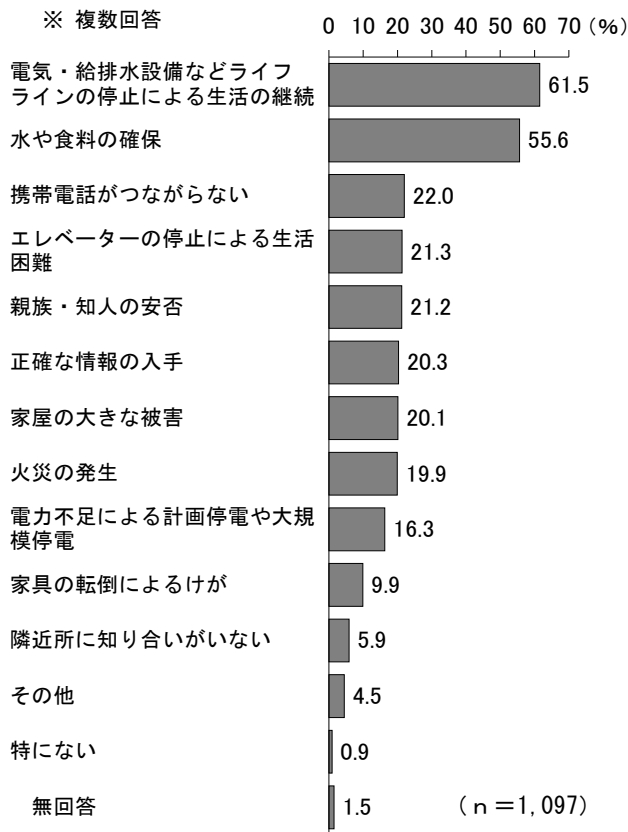
過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は平成12年から増加傾向にあったが、昨年の調査結果より4.1ポイント減少している。



2 防災対策

■ 震災の時に家庭で心配なこと

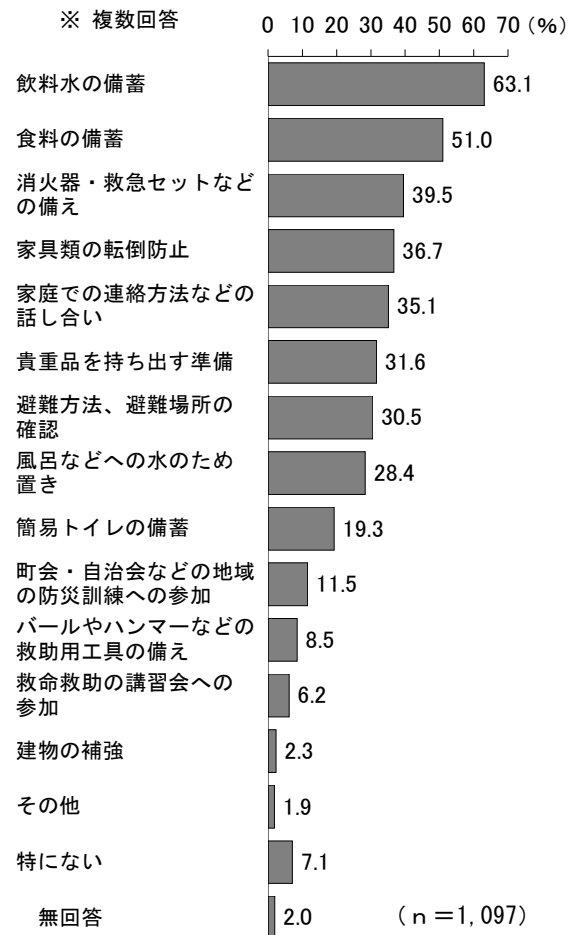
「電気・給排水設備などライフラインの停止による生活の継続」(61.5%)が6割を超え最も高く、以下、「水や食料の確保」(55.6%)、「携帯電話が繋がらない」(22.0%)、「エレベーターの停止による生活困難」(21.3%)などが続いている。



■ 家庭での災害に対する備え

「飲料水の備蓄」(63.1%)が6割台半ばで最も高く、以下、「食料の備蓄」(51.0%)、「消火器・救急セットなどの備え」(39.5%)、「家具類の転倒防止」(36.7%)などが続いている。

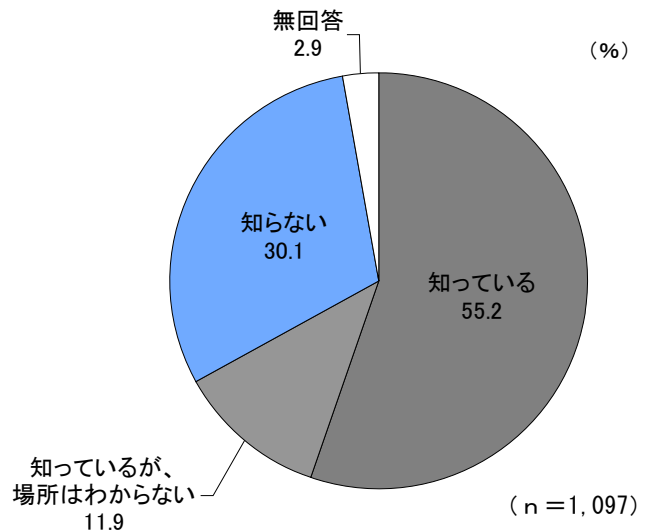
昨年の調査結果と比較すると、「飲料水の備蓄」は20.3ポイント、「貴重品を持ち出す準備」は14.1ポイント、「家庭での連絡方法などの話し合い」は13.9ポイント増加している。



■防災拠点の認知度

「知っている」は 55.2%で5割台半ばである。一方、「知らない」は 30.1%である。

過去の調査結果と比較すると、「知っている」は昨年の調査結果より 5.0 ポイント増加し、「知らない」が平成 21 年以降は減少傾向となっている。

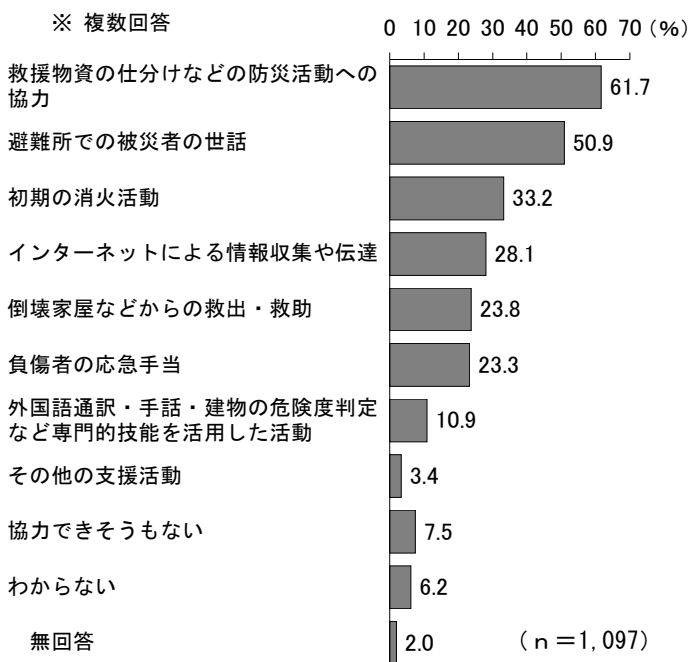


■災害時に協力できる活動

「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」(61.7%) が6割を超え最も高く、以下、「避難所での被災者の世話」(50.9%)、「初期の消火活動」(33.2%) などが続いている。

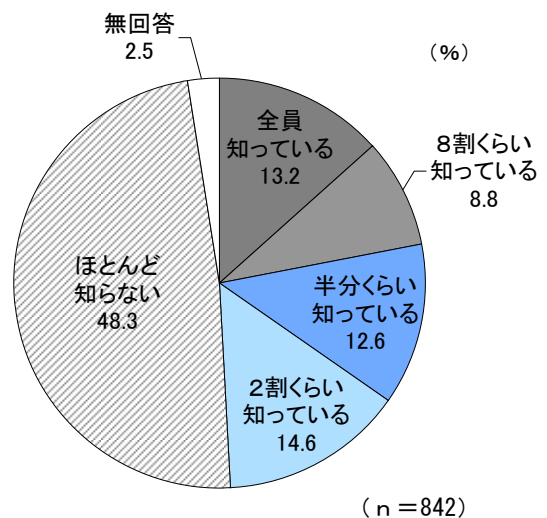
一方、「協力できそうもない」が 7.5%となっている。

昨年の調査結果と比較すると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は 12.7 ポイント増加している。



■集合住宅の近隣づきあい

「ほとんど知らない」(48.3%) が約5割と最も高くなっている。一方、知っている人の中では「2割くらい知っている」(14.6%) が1割台半ばと最も高く、以下、「全員知っている」(13.2%)、「半分くらい知っている」(12.6%)、「8割くらい知っている」(8.8%) となっている。

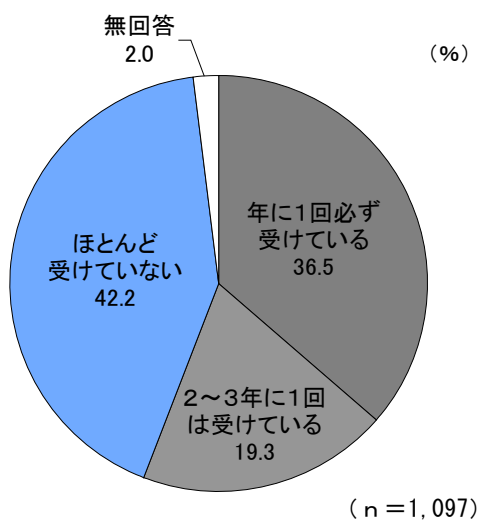


3 がん検診

■がん検診の受診状況

『受けている』（「年に1回必ず受けている」と「2～3年に1回は受けている」の合計）は55.8%で5割台半ばである。一方、「ほとんど受けていない」は42.2%である。

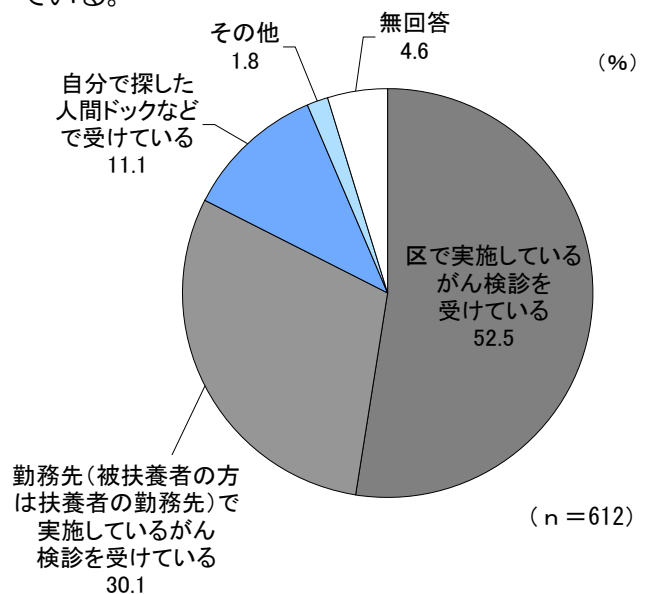
昨年の調査結果と比較すると、大きな違いはみられない。



■がん検診の受診方法

「区で実施しているがん検診を受けている」（52.5%）が5割を超え最も高く、以下、「勤務先（被扶養者の方は扶養者の勤務先）で実施しているがん検診を受けている」（30.1%）、「自分で探した人間ドックなどで受けている」（11.1%）が続いている。

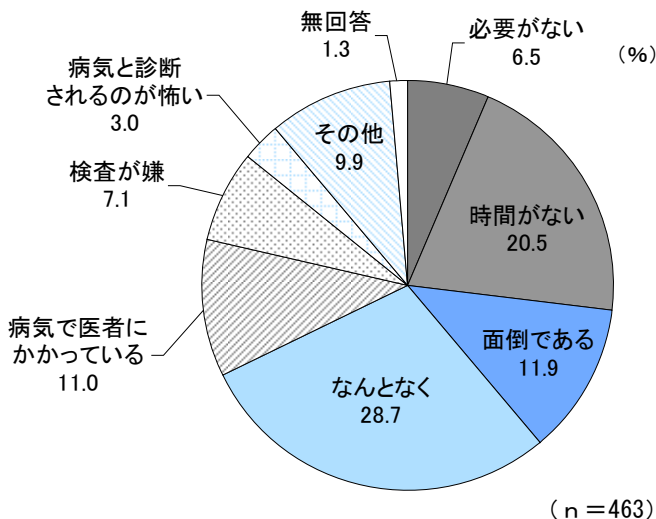
昨年の調査結果と比較すると、「勤務先（被扶養者の方は扶養者の勤務先）で実施しているがん検診を受けている」が6.5ポイント増加している。



■がん検診を受けていない理由

「なんとなく」（28.7%）が約3割で最も高く、以下、「時間がない」（20.5%）、「面倒である」（11.9%）などが続いている。

昨年の調査結果と比較すると、「なんとなく」が4.4ポイント増加している。

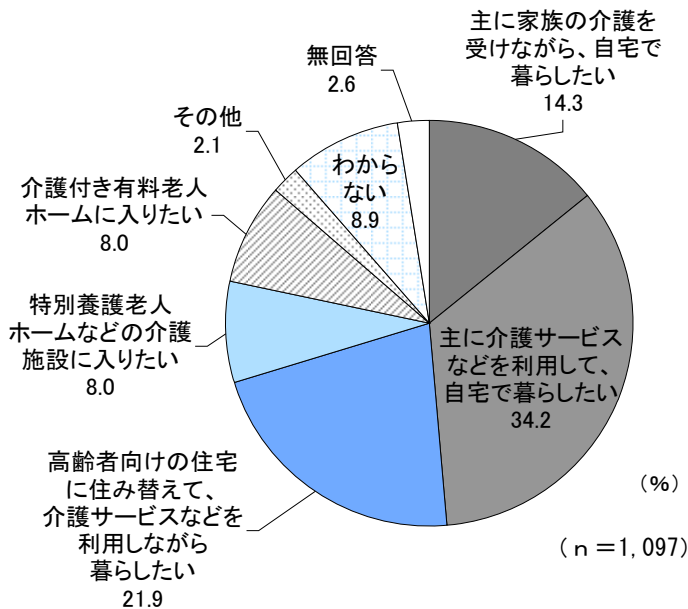


4 高齢者対策

■要介護時における暮らし方

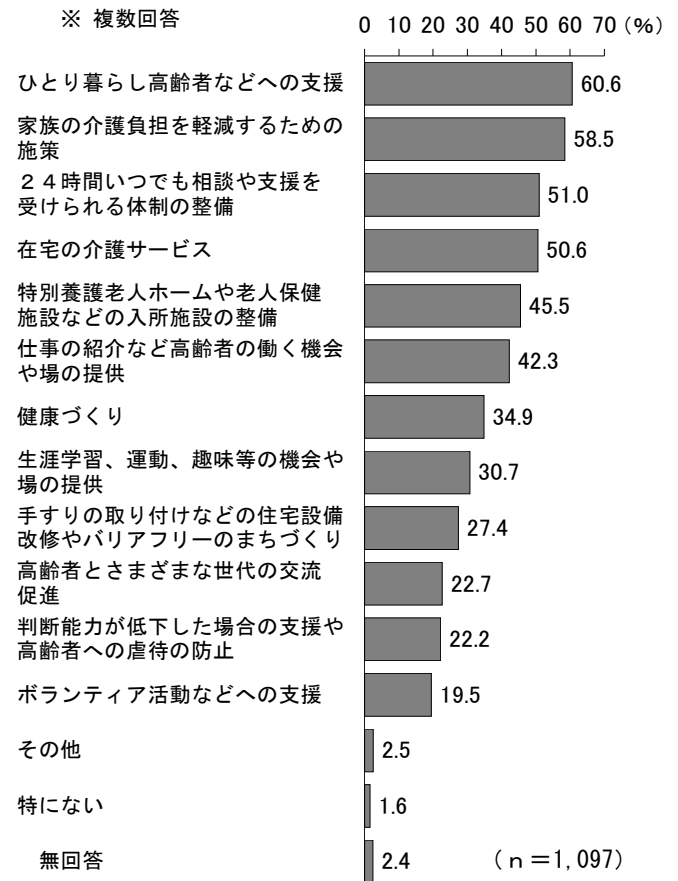
『自宅で暮らしたい』（「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」と「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」の合計）は48.5%で約5割である。

過去の調査結果と比較すると、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は平成19年以降増加傾向となっている。



■区に望む高齢者保健福祉サービス

「ひとり暮らし高齢者などへの支援」（60.6%）が6割で最も高く、以下、「家族の介護負担を軽減するための施策」（58.5%）、「24時間いつでも相談や支援を受けられる体制の整備（ホームヘルプサービス、あんしんコールなど）」（51.0%）などが続いている。

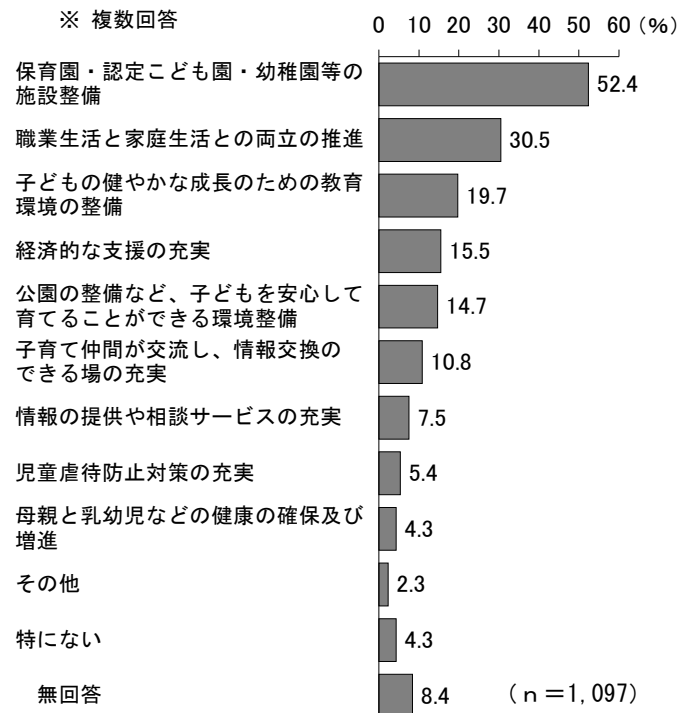


5 子育て支援

■ 区に望む子育て支援策

「保育園・認定こども園・幼稚園等の施設整備」(52.4%)が5割を超え最も高く、以下、「職業生活と家庭生活との両立の推進」(30.5%)、「子どもの健やかな成長のための教育環境の整備」(19.7%)などが続いている。

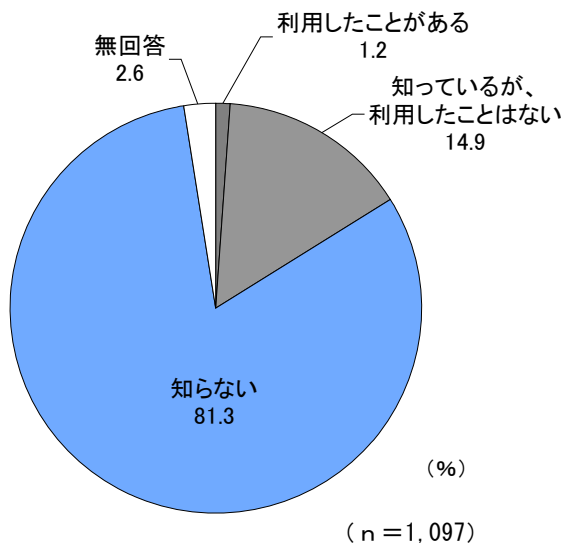
昨年の調査結果と比較すると、「保育園・認定こども園・幼稚園等の施設整備」が7.0ポイント減少している。



6 医療相談窓口

■ 医療相談窓口の認知度

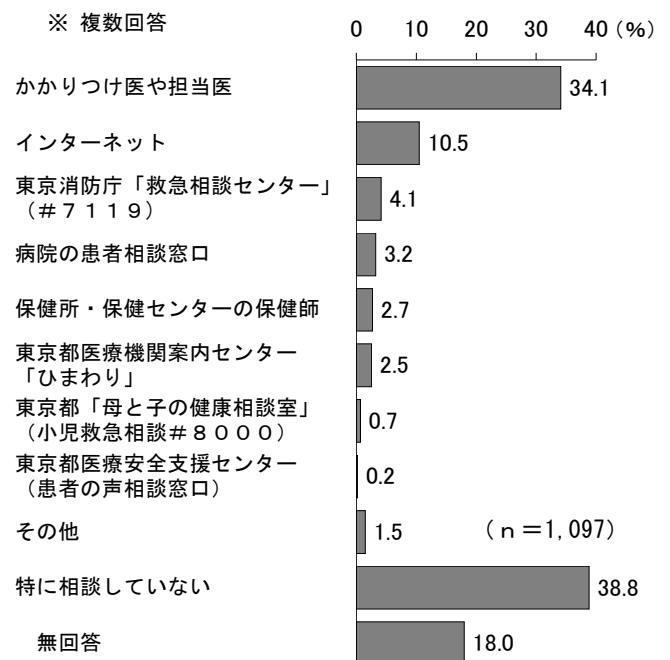
「知らない」(81.3%)が8割を超えている。一方、「知っているが、利用したことはない」(14.9%)が1割台半ば、「利用したことがある」が1.2%となっている。



■ 医療相談窓口以外の相談先

「かかりつけ医や担当医」(34.1%)が3割台半ばで最も高く、以下、「インターネット」(10.5%)などが続いている。

一方、「特に相談していない」(38.8%)が約4割となっている。



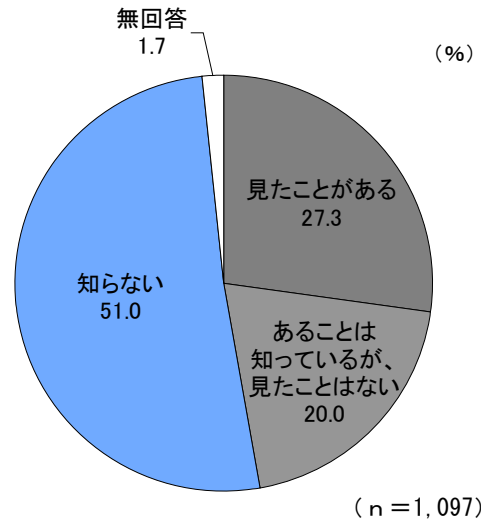
7 テレビ広報

■ 広報番組「こんにちは 中央区です」の認知度

『知っている』（「見たことがある」と「あることは知っているが、見たことはない」の合計）は47.3%で約5割である。

一方、「知らない」は51.0%であり、『知っている』より3.7ポイント高くなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「見たことがある」は4.7ポイント、『知っている』は7.2ポイント減少している。

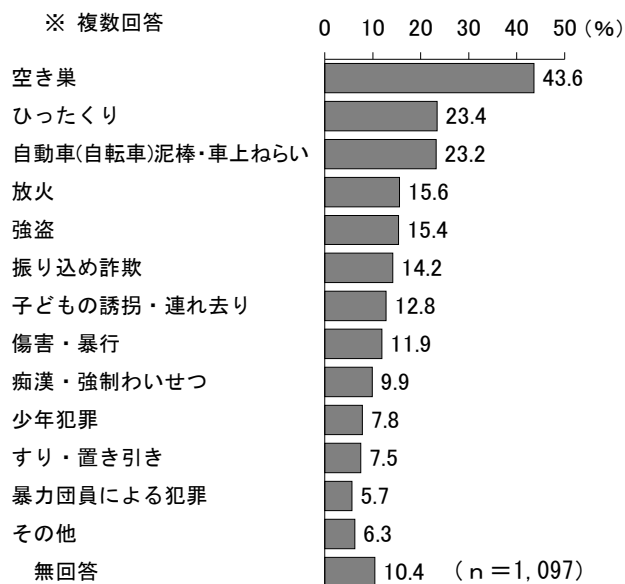


8 防犯対策

■ 不安に感じる犯罪

「空き巣」(43.6%)が4割台半ばで最も高く、以下、「ひったくり」(23.4%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(23.2%)、「放火」(15.6%)などが続いている。

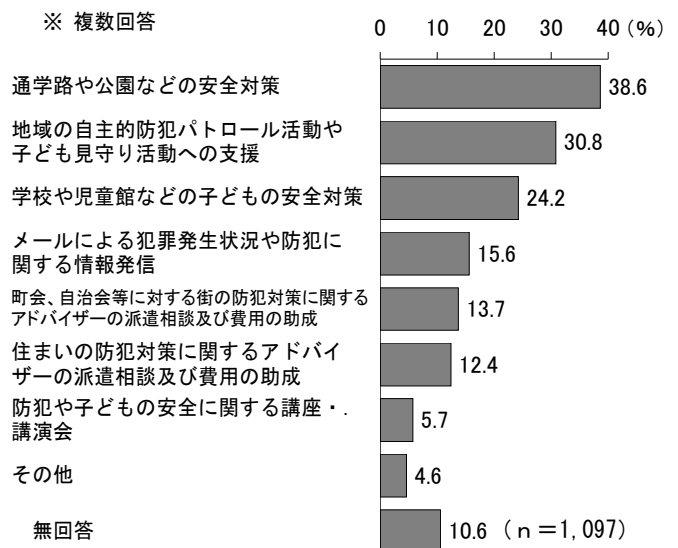
昨年の調査結果と比較すると、大きな違いはみられない。



■ 区に特に力を入れてほしい施策

「通学路や公園などの安全対策」(38.6%)が約4割で最も高く、以下、「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」(30.8%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(24.2%)などが続いている。

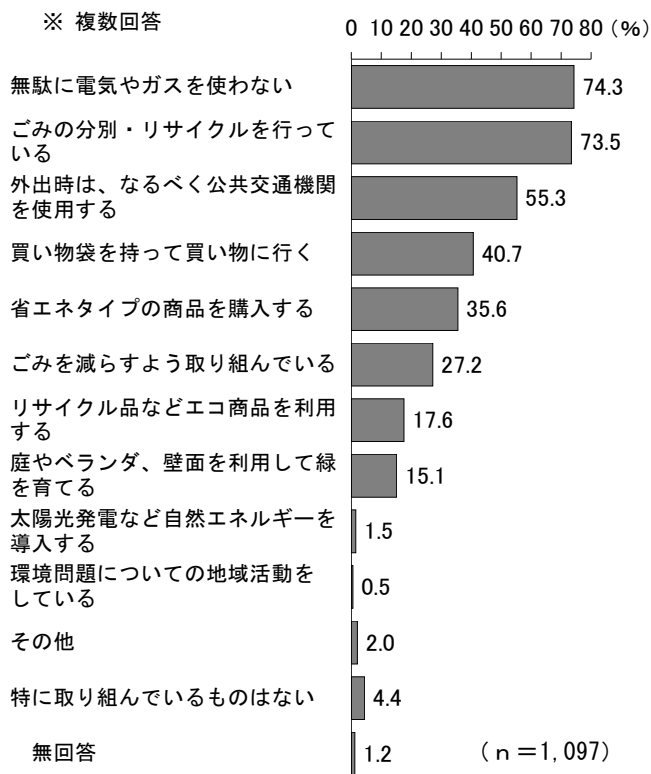
昨年の調査結果と比較すると、「学校や児童館などの子どもの安全対策」が5.1ポイント減少している。



9 地球温暖化対策

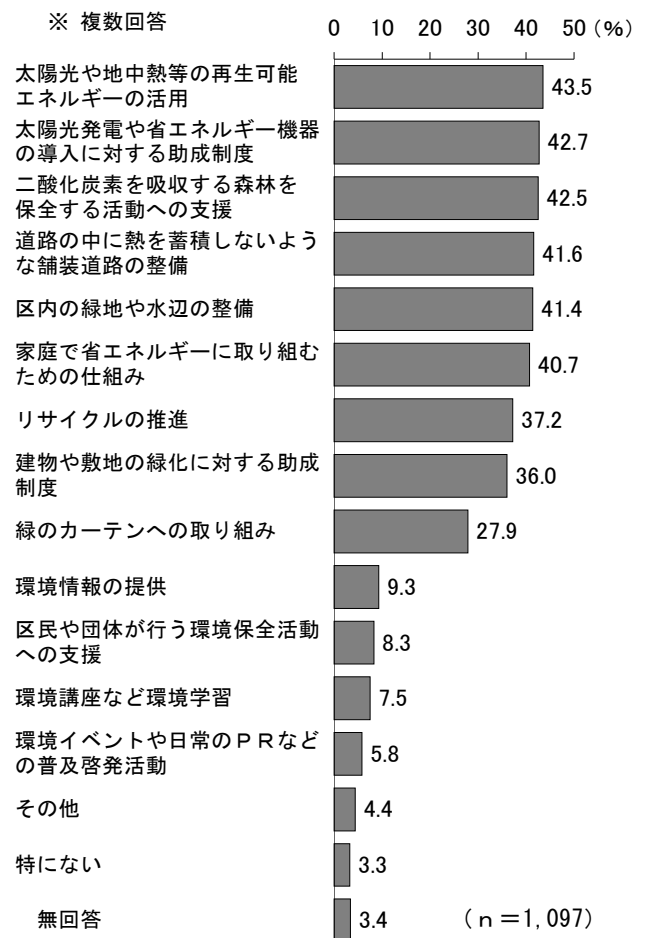
■地球温暖化防止への取り組み

「無駄に電気やガスを使わない」(74.3%)が7割台半ばで最も高く、以下、「ごみの分別・リサイクルを行っている」(73.5%)、「外出時は、なるべく公共交通機関を使用する」(55.3%)などが続いている。



■地球温暖化対策で重要なこと

「太陽光や地中熱等の再生可能エネルギーの活用」(43.5%)が4割台半ばで最も高く、以下、「太陽光発電や省エネルギー機器の導入に対する助成制度」(42.7%)、「二酸化炭素を吸収する森林を保全する活動への支援」(42.5%)などが続いている。

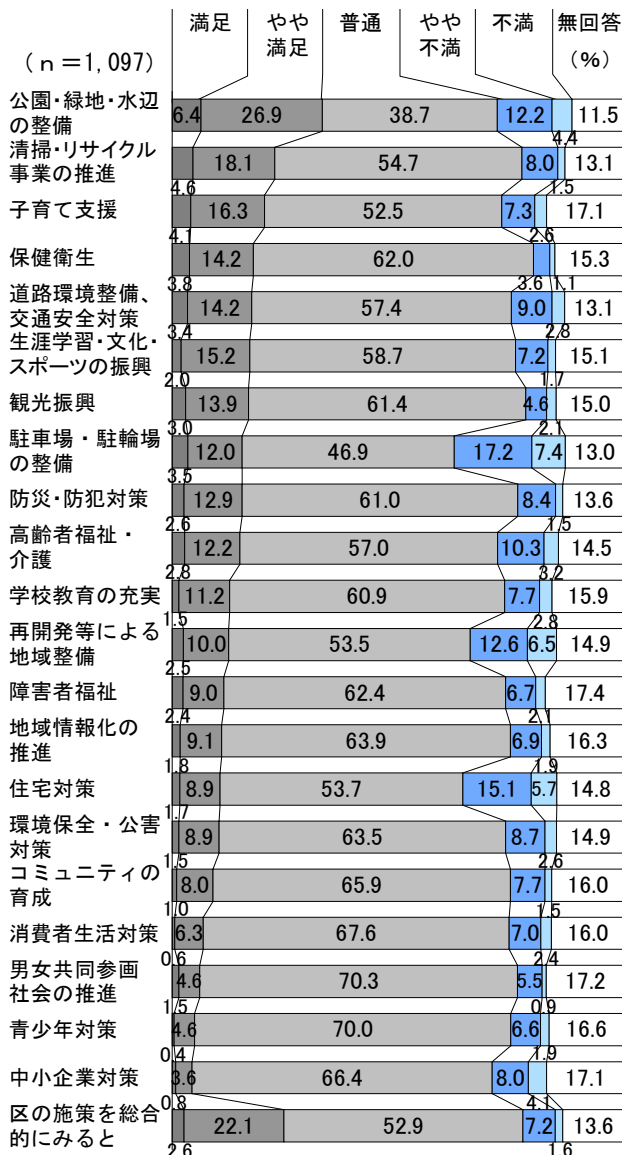


10 施策の要望・評価

■ 区の施策の満足度

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

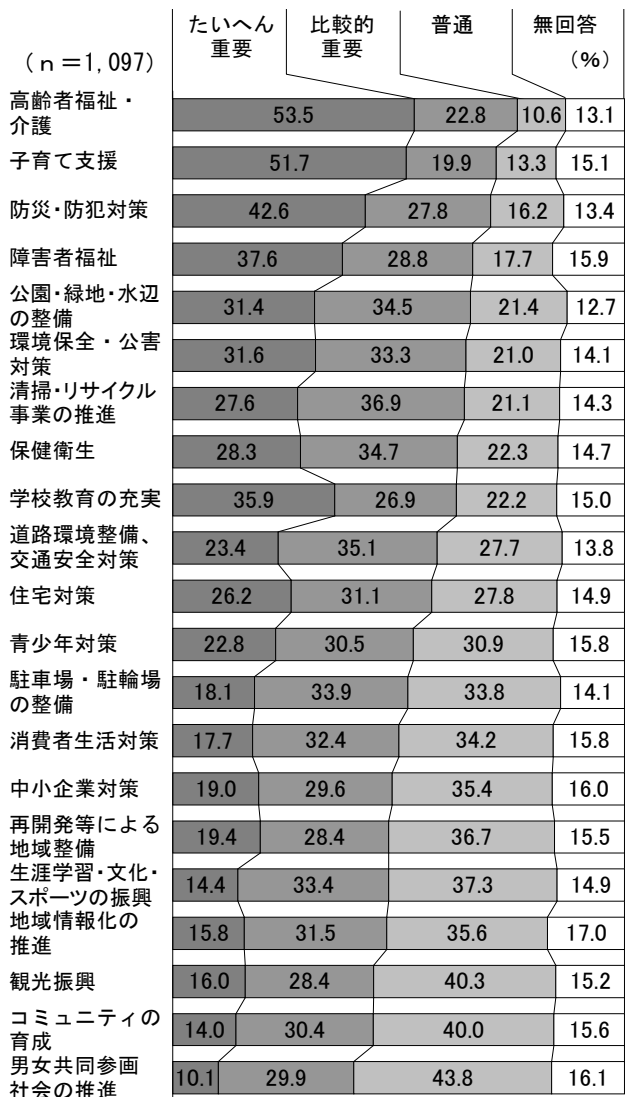
- 『満足』 ①公園・緑地・水辺の整備 (33.3%)
 ②清掃・リサイクル事業の推進 (22.7%)
 ③子育て支援 (20.4%)
 ④保健衛生 (18.0%)
 ⑤道路環境整備、交通安全対策 (17.6%)
- 『不満足』 ①駐車場・駐輪場の整備 (24.6%)
 ②住宅対策 (20.8%)
 ③再開発等による地域整備 (19.1%)
 ④公園・緑地・水辺の整備 (16.6%)
 ⑤高齢者福祉・介護 (13.5%)



■ 区の施策の重要度

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

- 上位 ①高齢者福祉・介護 (76.3%)
 ②子育て支援 (71.6%)
 ③防災・防犯対策 (70.4%)
 ④障害者福祉 (66.4%)
 ⑤公園・緑地・水辺の整備 (65.9%)
- 下位 ①男女共同参画社会の推進 (40.0%)
 ②コミュニティの育成 (44.4%)
 ②観光振興 (44.4%)
 ④地域情報化の推進 (47.3%)
 ⑤生涯学習・文化・スポーツの振興 (47.8%)
 ⑤再開発等による地域整備 (47.8%)



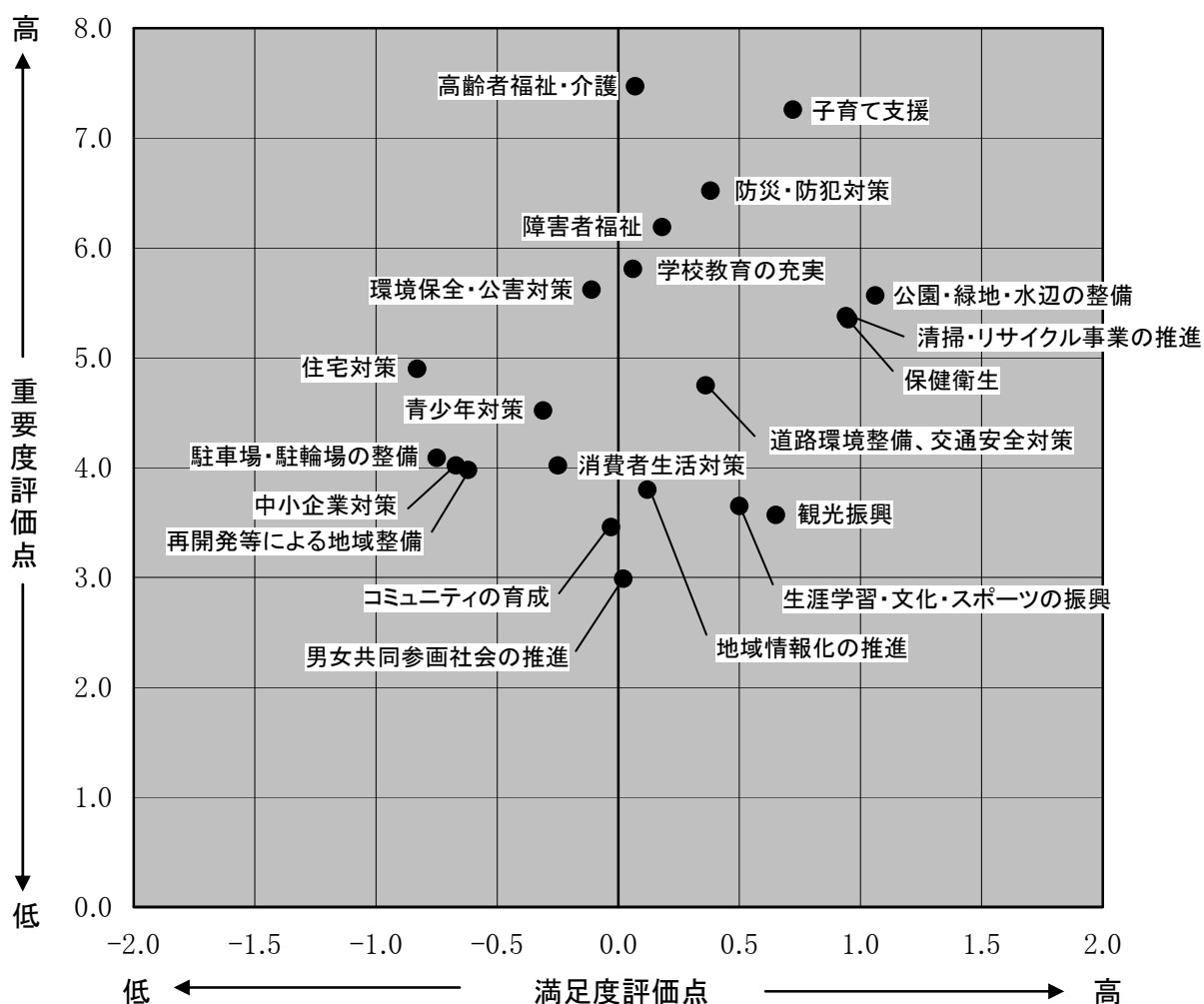
■ 区の施策の満足度と重要度の相関

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。それぞれの算出方法は以下の通りである。

$$\begin{aligned} \text{満足度評価点} &= (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \\ &\quad \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times \blacktriangle 5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times \blacktriangle 10 \text{点}) \\ &\quad \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{重要度評価点} &= (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の} \\ &\quad \text{回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数}) \end{aligned}$$

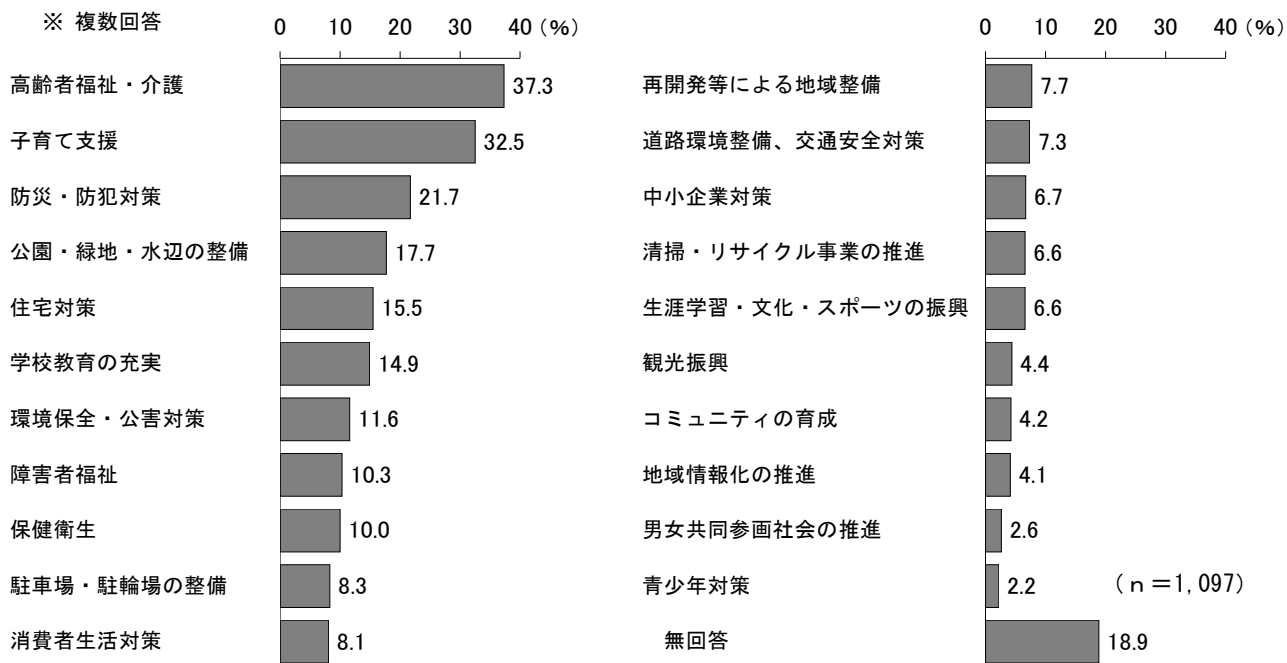
このグラフでは、満足度評価が低く、重要度評価が高い領域（左上方）にある項目が比較的居民ニーズが高いもので、今後の行政課題となるものと考えられる。



■ 区の施策への要望

「高齢者福祉・介護」（37.3%）が約4割で最も高く、以下、「子育て支援」（32.5%）、「防災・防犯対策」（21.7%）などが続いている。

昨年の調査結果と比較すると、上位3項目については、同じ項目となっている。



第41回 中央区政世論調査

平成23年10月

発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
03 (3546) 5222 (直通)

実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
03 (3239) 0071

刊行物登録番号
23-056